

調査結果の要約

1 定住性

(1) 区民の居住年数は、「20年以上」の《長期居住者》が67.8%と全体の70%弱を占めている。次いで5年から20年未満の《中期居住者》が19.7%（「5～10年未満」7.7%、「10～20年未満」12.0%）で、「1年未満」（2.6%）と「1～5年未満」（8.2%）とを合わせた《短期居住者》10.8%の順となっている。

(2) 今住んでいる地域の暮らしやすい点については、「普段の買い物が便利」が55.9%と最も多く、次いで「公園や緑が多い」（47.2%）、「通勤や通学などの交通の便がよい」（34.1%）、「物価が安い」（29.1%）が比較的上位にあげられている。

一方、暮らしにくい点は、「通勤や通学などの交通の便がわるい」が25.8%と最も多く、次いで「治安がわるい」（25.2%）、「体育施設（体育館やプールなど）が利用しにくい」（20.0%）の順となっている。

(3) 今住んでいるところが「暮らしやすい」と感じている人は23.1%であり、「どちらかといえば暮らしやすい」（61.7%）と合わせた《暮らしやすい》は全体の84.8%を占めている。一方、「暮らしにくい」（2.7%）と「どちらかといえば暮らしにくい」（12.0%）を合わせた《暮らしにくい》人の割合は14.7%である。

(4) 区内に「ずっと住み続けたい」人は36.5%で、「当分は住み続けたい」41.6%を合わせた78.1%が《定住意向》をもっている。「区外に転出したい」という《移転意向》をもつ人は7.0%と比較的低率ではあるが、一方で「わからない」と回答した人が14.9%いる。

(5) 区政への参加・協力について聞いたところ、「積極的に参加・協力したい」（7.4%）と「ある程度は参加・協力したい」（54.2%）を合わせた《参加意向あり》が61.6%であった。なお、「参加・協力したくない」は2.3%である。

2 人権

(1) 基本的人権について聞いたところ、「ある程度の制約はやむを得ない」が57.7%と全体の60%弱を占めている。「何ものにもまして尊重されなければならない」は26.3%にとどまっており、「むしろ制限する必要がある」は6.0%である。

(2) 人権についての関心について聞いたところ、「新聞やテレビなどで報道される問題には関心がある」（65.3%）と「日頃から関心がある」（18.4%）を合わせた《関心がある》は全体の83.7%を占めている。一方、「あまり関心がない」（12.9%）と「関心がない」（1.6%）を合わせた《関心がない》は14.5%である。

(3) 人権課題についての関心について聞いたところ、40%台では「高齢者の人権」（47.8%）と

「障害者の人権」(42.4%)が、30%台では「子供の人権」(36.7%)、「女性の人権」(35.7%)、「犯罪被害者やその家族の人権」(35.5%)が各々あげられている。

(4) 今の日本で人権が守られている程度について聞いたところ、「十分守られている」(3.0%)と「十分とはいえませんが守られている」(58.1%)を合わせた《守られている》は61.1%をしめている。一方、「あまり守られていない」(24.6%)と「ぜんぜん守られていない」(2.1%)をあわせた《守られていない》は26.7%で全体の1/4強を占めている。

(5) 人権について《守られていない》の内訳をみると、最も多いのは「障害者への差別」で、全体、男性、女性において最多である(いずれも40%台)。次に多いのは全体では「インターネットによる人権侵害」で、男性(36.0%)、女性(40.4%)とも第3位となっている。続いて「犯罪被害者やその家族への差別」は男性では第2位(37.8%)、女性では第5位(36.4%)となっている。女性における第2位は「女性への差別」(40.8%)となっている。

(6) この5~6年の間の人権侵害の頻度の変化について聞いたところ、「あまり変わらない」が46.8%で中心となっている。「多くなってきた」は19.9%、「少なくなってきた」は14.8%でやや多くなってきた変化がみられる。

(7) 今までに、自分自身の人権が侵害されたと思ったことがあるかを聞いたところ、「ない」は全体の80%弱(78.6%)を占めている。但し、「ある」も18.5%出現している。

(8) 人権侵害に対する対応について聞いたところ、「黙って黙認した」が54.5%と最も多い。次いで「身近な人に相談した」(32.7%)、「相手に対して具体的な抗議をした」(28.0%)があげられている。上位3位は男女別でも同様である。

(9) 人権侵害された場合や内容では、「あらぬ噂や悪口、かげ口」が全体で44.7%と最も多い。男女別でも共に第1位であるが、女性の方が8.0ポイント多い結果となっている。第2位は「名誉・信用のき損、侮辱」が全体で25.1%であり、男女とも第2位に位置しているが、男性の方が7.4%ポイント多い。男性で第3位の「警察官の不当な取扱い」は21.1%であるが、女性は5.2%である。

(10) 人権尊重社会の実現のために、区はどのような取り組みに力を入れていけばよいと思うか聞いたところ、20代男性が人権教育や被害者の救済に関心を持っており、全体の順位をみると第1位は「人権に関する相談のための機関・施設を充実する」で31.7%、20%台で「学校内外の人権教育を充実する」(28.5%)、「国や都、民間団体等の関係機関が連係を図り、一体的な教育・啓発活動を推進する」(27.9%)、人権が侵害された被害者の救済を充実する」(25.5%)と続いている。

3 国際化

- (1) 外国に行ったことがあるかを聞いたところ、「ある」と「ない」は約6：4である。
- (2) 外国へ行ったことがある人にその目的を聞いたところ、「観光で行った」が全体、男女とも90%以上で断然多いが、女性の方が男性より5.4ポイント多い。「仕事で行った」は男性の方が女性より20.1ポイント多い。
- (3) 外国へ行ったことがない人に今後行ってみたいかを聞いたところ、「特に行ってみたいと思わない」が全体で1/2強（57.6%）を占める。「行ってみたいと思う」は35.5%である。
- (4) 最近、近所や職場などで外国人が増えてきたと感じるか聞いたところ、「増加した」が60%を超えている（62.6%）。
- (5) 外国人が増えることをどう思うか聞いたところ、「なんともいえない」が60%強を占めている。「望ましい」が14.1%、「望ましくない」が22.3%で「望ましくない」が8.2ポイント「望ましい」を上まわっている。
- (6) 外国人の増加が望ましい理由について聞いたところ、「外国を知る機会や交流が深まる」が中心となっている。全体で第1位の「外国の言葉・習慣・文化を知る機会が増える」は、男女でも第1位であるが、女性の方が15.4ポイント多い。第2位の「外国との交流が深まる」は、男女ともほぼ同率である。第3位の外国の人と接する機会が増える」は、女性の方が9.5ポイント多い。第4位の「経済的な発展につながる」は男性の方が8.3ポイント多い。
- (7) 外国人の増加が望ましくない理由について聞いたところ、「犯罪やトラブルが増えそう」が断然多く、88.2%を占めている。全体、男女とも同じ傾向である。
- (8) 身のまわりで外国人に対する不利益な取り扱いがあると感じるか聞いたところ、「感じる」（7.6%）と「少し感じる」（25.2%）を合わせた《感じる》が32.8%、「感じない」（27.7%）、「わからない」（37.0%）とおよそ1/3づつに分かれている。
- (9) 具体的な外国人に対する不利益な取り扱い内容を聞いたところ、第1位は「就職が困難である」（62.9%）、次に「安価な労働者として取り扱われている」（53.3%）、「アパートなど住居への入居が困難である」（48.2%）の順になっている。
- (10) 外国の文化や習慣を理解する方法を聞いたところ、「その国の文化・生活習慣の情報を集め、学習する」（43.3%）、「日本に來ている外国の人にその国の話を聞く」（41.1%）が中心である。
- (11) 足立区の国際化を進めていくための区の取り組みについて聞いたところ、「外国の人が気軽に相談できる区役所の窓口を増やす」が最も多く51.7%である。続いて、30%台で「日本語ができない外国の人のための日本語教室・学校での適応教育を充実する」（38.0%）、「案内や標識に外国語でも表示することを区施設から率先して行う」（34.5%）、「生活のルールを伝える出前講座や講習会を開催する」（34.5%）があげられている。

4 日常の区民生活

(1) 環境のために日頃から心がけていることを聞いたところ、「ごみの分別に気をつけている」91.2%と最も多く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てをしないようにしている」(69.0%)、「節水や節電などの省エネルギーを心がけている」(61.5%)が上位にあげられている。

(2) 地震などの災害に備えていることについて聞いたところ、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が58.0%と断然多く、次いで「自宅に消火器を備えている」(39.0%)、「非常持ち出し品をまとめている」(30.6%)が上位にあげられている。

(3) 日頃の防犯対策について聞いたところ、「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が42.5%で最も多く、次いで「鍵の取り替えや窓の強化など、家への侵入をしづらくする」(31.3%)があげられている。また、「特にない」は28.6%である。

(4) 防犯対策を始めたきっかけについて聞いたところ、「治安が悪化したと感じたから」が46.8%と最も多く、次いで「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」(25.0%)があげられている。

(5) 保健と医療などについて聞いたところ、「安心して受診できる医療機関が身近にある」が32.2%と最も多く、次いで「心の病に不安を持っている」(15.0%)、「難病に関する不安を持っている」(11.8%)があげられている。また、「特にない」は35.0%である。

(6) この1年間に参加した地域活動について聞いたところ、「特にない」が51.9%で、1/2強が参加していなかった。参加したものでは「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が29.4%と最も多く、全体の1/4以上である。次いで「区が主催する各種イベント、催し物」(14.7%)、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」(8.4%)が上位にあげられている。

(7) 区民と区に関わる活動の中で、今後参加したいと思うものについて聞いたところ、「高齢者の支援に関する活動」が15.9%で最も多かった。次いで「町会・自治会の運営に関する活動」(14.7%)、「生涯学習ボランティアなど地域学習に関する活動」(13.0%)で10%台の参加意向率は上位3活動である。一方、「特にない」は35.6%で全体の1/3強を占めている。

5 区政

(1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組みをあげてもらったところ、「都市開発」が35.1%と最も多く、次いで「資源環境対策」(33.0%)、「交通対策」(32.1%)、「自然・緑化対策」(31.4%)、が上位に上げられている。

(2) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを3つまであげてもらったところ、「高齢者支援」が34.1%と最も多く、「交通対策」も30.0%である。次いで「災害対策」(28.3%)の順に、上位3項目があげられている。

(3) 区政に対する満足度を聞いたところ、「満足」という人が4.4%、「やや満足」が38.2%で、

これらを合わせた《満足層》は42.6%である。また「不満」の7.1%と「やや不満」の20.4%を合わせた《不満層》は27.8%である。平成16年と比較すると、《満足層》は41.2%から42.6%へ1.4ポイント上昇している。

(4) 区の実施についてどのように感じるか聞いたところ、「区の実施を容易に知ることができる」が58.2%で最も高い。次いで「快適で安全なまちづくりが進められている」(51.5%)、「景観・街並みが魅力的になってきている」(50.8%)があげられている。

(5) 社会全体における男女の地位が平等だと感じるかどうか聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」(6.7%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(51.3%)を合わせた《男性の方が優遇》が60%弱(58.0%)を占める一方で「女性の方が優遇」は7.7%にすぎない。他方、「平等」も17.8%にとどまっている。